

『生命現象から人間社会を学ぶ』～『隙間に立つ勇氣』～

2026 年 4 月 11 日【『がん哲学外来 市ヶ谷だいじょうぶ！カフェ』（代表者：田口謙治氏・担当者：田口桂子氏）】に赴いた（画像）。今年、5 周年とのことである。多数の参加者であった。お母様のご逝去された『中学 2 年生の娘様と お父様』が演奏された。大いに感動した。娘様が、小学生に時、筆者は、お母様と個人面談をしたものである。筆者は、講演では複数の質問も寄せられた。講演後、筆者は別室で、4 組の個人面談の機会が与えられた。会場でニュースレター【『明日を考える会 ～ 次世代の社会貢献 ～』第 44 号】が配布されていた。筆者は、『明日を考える会 会長』として下記の文章【『世渡りの道』～異なる者を容れる雅量～】が紹介されていた（画像）。

《人の体は一個の受精卵から出発し、細胞数 37 兆個と推定される。細胞核内の DNA の総延長は 1200 億 km に及び、まさに太陽系（約 100 億 km）を内包する。『人体は 宇宙を内包している』と言える。DNA は 38 億年前から 5 千万以上の種を生み出してきたが、別のものに置き換えられたことはない。人間の臓器・組織は約 200 種類。これは世界の民族の数と同じであろうか！？【臓器・組織のいたわりは、世界平和の学び】となろう！まさに【生命現象から人間社会を具象的に学ぶ】である。

病理医は、形態&起源&進展を追求する。病理組織診断とは『風貌を診て、心まで読む＝人生の根幹』の追求である。2008 年 1 月、順天堂大学で『がん哲学外来』を始めたのは、病気と人間の『隙間に立つ』ためであった。『癌細胞の病理と人間社会の病理』を見極めることこそが『がん哲学の原点』であり、『病理医よ 大志を抱け！』の心得である。

『生きている限り、人には使命がある』。新渡戸稲造は『世渡りの道』で『異なる者を容れる雅量をもたなければならぬ』と説いた。相手を思いやる『慈愛の心』とは、この雅量に他ならない。高らかに理念を語る『小国の大人物 出でよ！』の修練である。幼年期、熱を出しては 母に背負われて、峠のトンネルを通過して、隣村の診療所に行った体験が、今でも脳裏に焼き付いている。『隙間に立つ勇氣』の確認である。『ビジョンは人知・思いを超えて進展する』ことを痛感する日々である。》 大変有意義な充実した貴重な 5 周年『市ヶ谷だいじょうぶ！カフェ』であった。スタッフの皆様の『心温まる おもてなし』には、ただただ感服する。

市ヶ谷 だいじょうぶ！カフェ

第49回
2026
4月11日 (土)
13:00 ▶15:30
樋野先生講演会

第50回
2026
5月9日 (土)
13:00 ▶15:00

第51回
2026
6月13日 (土)
13:00 ▶15:00

第52回
2026
7月11日 (土)
13:00 ▶15:00

第53回
2026
8月8日 (土)
13:00 ▶15:00

以降の予定
2026
9月12日(土)
10月10日(土)
11月14日(土)
12月12日(土)
2027
1月9日(土)
いずれも
13:00~ Start

一人で抱え込まず、少しだけお話してみませんか？
カフェは、がんについての思いや不安などを語り合う『対話』のための場所です。がんを経験された方、そのご家族・ご友人、身近な人を見送られた方、医療者の方…。
がん患者さんだけでなく、どなたでもご参加いただけます。
お茶を飲みつつ、お互いに語り合い、聞き合い、あるいは、ただそっと座って、そして、お帰りの頃には、みんなが笑顔になっていく…そんなカフェになることを願っています。



一般社団法人
がん哲学外来名譽理事
順天堂大学 名誉教授
樋野興夫先生

主催：市ヶ谷だいじょうぶ！カフェ
後援：一般社団法人 がん哲学外来
千代田区 社会福祉協議会
◎ご参加のご案内 (担当：田口・平田)
・参加費：1人300円
・申し込み方法 (メール・電話)
メール daijobucafe@gmail.com
電話 090-9012-4413
※お名前・電話・メールをお知らせください。
※事前申し込みが必要です。
※駐輪場・駐車場はありません。



JR 市ヶ谷駅から徒歩7分、地下鉄 A3 出口から徒歩2分

発行：2026.4.11

『明日を考える会 ～次世代の社会貢献～』 ニュースレター 第44号

『世渡りの道』 ～異なる者を容れる雅量～

順天堂大学 名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
一般社団法人 がん哲学外来 名譽理事長
明日を考える会 会長 樋野興夫

【器器・組織のいたわりは、世界平和の学び】と
なろう！まさに【生命現象から人間社会を具象的に
学ぶ】である。

病理医は、形態&起源&進展を追求する。病理組織診断とは『風貌を診て、心まで読む=人生の根幹』の追求である。2008年1月、順天堂大学で『がん哲学外来』を始めたのは、病氣と人間の『隙間に立つ』ためであった。『癌細胞の病理と人間社会の病理』を見極めることこそが『がん哲学の原点』であり、『病理医大志を抱け！』の心得である。

『生きている限り、人には使命がある』。新渡戸稲造は『世渡りの道』で『異なる者を容れる雅量をもたなければならない』と説いた。相手を思いやる『慈愛の心』とは、この雅量に他ならない。高らかに理念を語る『小園の大人物 出でよ！』の修練である。幼年期、熱を出しては母に背負われて、峠のトンネルを通過して、隣村の診療所に行った体験が、今でも脳裏に残り続けている。共に『隙間に立つ』勇氣を確認したい。『ビジョンは人知・思いを超えて進展する』ことを痛感する日々である。

人の体は一個の受精卵から出発し、細胞数 37 兆個と推定される。細胞核内の DNA の総延長は 1200 億 km に及び、まさに太陽系(約 100 億 km)を内包する。『人体は宇宙を内包している』と言える。DNA は 38 億年前から 5 千万以上の種を生み出してきたが、別のものに置き換えられたことはない。人間の器器・組織は約 200 種類。これは世界の民族の数と同じであろうか！？



「5年目を迎えて」

市ヶ谷だいじょうぶ！カフェ代表 田口謙治

ずいぶん前に出会って以来、折に触れて思い返す、ずっと好きなお話があります。

ある講演家が、聴衆の前で20ドル札を掲げ、語り始めました。「このお札が欲しい方は？」何人かが手を挙げると、講師はそのお札をクシャクシャに丸め、さらに足で踏みつけ、蹴り飛ばしてしまいました。そして拾い上げ、こう言ったのです。「このお金をどのように扱ったかに関係なく、このお札は20ドルで価値は変わりません。人生で誤解され、乱暴に扱われ、幼い頃に深い心の傷を負ったとしても、あなたの価値は少しも変わらないのです」。

市ヶ谷だいじょうぶ！カフェは、今年5年目を迎えました。毎月第2土曜日、さまざまな思いを抱えた方が扉を開けてくださいます。病氣のこと、家族のこと、将来への不安、それぞれの重さを胸に抱きながら、静かに椅子に腰を下ろされます。

カフェの場では、難しい言葉は要りません。ただ、話す。ただ、聞く。ただ、うなずく。それだけのことが、何かをほぐしてくれるようになります。

クシャクシャになった20ドル札が価値を失わないように、どんなに傷ついた歩みを重ねてきた方も、その人本来の存在の確かさ・尊さを失ってはいません。このカフェが、そのことをそっと確かめ合える場所であり続けたいと願っています。

同じ困難な時代を生きる者同士が、たとえわずかでも、お互いのために時間を使い合うなら、きっと魂が震えるような喜びを分かち合えると、心から信じています。

5年目も、そのままのあなたで、いらしてください。



明日を考えるヒント

「無事は貴人(飾らず、ありのままを生きる在り方こそが、真に尊い)。(臨濟禅師)」